

広告特集 企画・制作 朝日新聞社広告局

LEADERS AS READER

リーダーたちの本棚 VOL. 28



森ビル 代表取締役社長 辻慎吾さん

六本木ヒルズの仕事にヒント

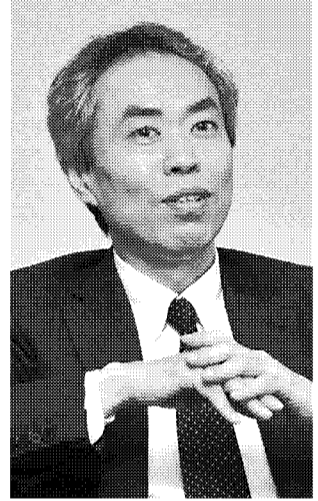
読書家の父から読むように勧められたのは、主に政治や外交の本です。父は海軍兵学校を経て自衛隊に進んだ人で、山本五十六公...

経営において大切にしたい「人の力」を本で再確認

「P.F.ドラッカー」の著書に最初に触れたのは、六本木の再開発事業にあたりつつあった頃です。森ビル社員、地権者、外部の設計者など...

街づくりを通じ東京を、日本を元気に

森ビルの取締役社長だった辻さん、創業者の森以外に社長は初めてで、当時社長の森に「強い意志や遂行力など後継者の条件を最も満たしている」と評された。今後は、アークヒルズや六本木ヒルズなど完成プロジェクトの運営、現在進行中の虎ノ門・六本木地区再開発事業や環状2号線再開発事業...



1960年広島県生まれ。85年横浜国立大学大学院工学研究科建築学専攻修了。同年森ビル入社。99年六本木六丁目再開発事業推進本部計画担当部長。2001年タウンマネジメント準備室担当部長。05年六本木ヒルズ運営室長兼タウンマネジメント部長。06年取締役六本木ヒルズ運営室長兼タウンマネジメント部長。08年常務取締役中国事業本部タウンマネジメント部長兼務。09年1月常務取締役営業本部兼務。12月取締役副社長 経営企画室・営業本部・タウンマネジメント事業担当。11年6月から現職。

「父が大変な読書家で、我が家は書店かと思うほどにたくさん本がありました。最近の読書スタイルは、まとめ読み。知りたいと思ったことに関する本を手当たり次第に数冊買って、一気に読みます。興味を満たしたい時に頼れるのが本です。森ビル生え抜いで、六本木ヒルズの再開発事業では400人の地権者の同意を得る難事業や「タウンマネジメント」を指揮した辻慎吾さん。前社長の森に手腕を買われ、この6月、社長に就任した。紹介していただいた本から、街づくりへの情熱がうかがえる。

森ビルの思想が詰まった社員と共有したい一冊

最後に紹介するのは、森ビル会長である森稔の著書「ブルズ 挑戦する都市」です。僕が社長として果たすべき第一の使命は、森ビル、森会長の街づくりの思想を受け継ぎ、発展させることです。「トップの信念や夢」を形にした「企業理念」が、そして道を踏み外さないための「企業倫理」が、しっかりとついている。会社は伸び続けることはできない。「前例がないことは障害も多く、乗り越えるには大変なエネルギー」の量は、目標の高さ、夢の大きさに比例する。300年の歴史を持つ加賀藩お抱えの狂言師、野村万蔵家の嫡男で総合芸術家の著者が、日本文化の持つ良き「いい加減」について、食、日本語、教育、伝統芸能など多様なテーマと自身の人生論をからめてつづるエッセー本。

基礎があつてこそ創造できる「重軽」へのあこがれ

「いい加減よい加減」は、著者、野村万蔵さんの感性が光ります。例えば「万の丞さんの御祖父、万蔵さんについて。芸、芝居の真面目な「おもしろも(重軽)」の万蔵さんが、60歳

海外展開に生かす

森ビルは、オフィス、住宅、交通、ホテル、文化施設など、さまざまな都市機能を立体的に集約した「ヴァーティカル」のコンセプトで、六本木ヒルズを創り、都市を育むという発想は貴重な輸出資源でもある。上海、大連の都市計画や各経験やノウハウを持つ企業は海外に、開発というハード面の運営というソフトの両面で勝負できる好機と捉えています。信条は、オープンマインド。六本木ヒルズのフンドコンセプトである。

辻慎吾さんがすすめる5冊

「ドラッカー名著集1 経営者の条件」(ダイヤモンド社) P.F.ドラッカー・著 上田博生・訳 組織の全員がエグゼクティブ(=組織の業績に貢献すべく行動し、意思決定を行う責任を持つ人)のように働くべきこと、成果をあげるため、成果をあげる能力を習得するために自らをマネジメントする方法などを説く、万人のための帝王学。

「建築行脚」全12巻(六耀社) 磯崎新・著 篠山紀信・撮影 カルナック神殿、アクロポリス、シャルル大聖堂、サン・ロレンツォ聖堂、サー・ジョン・ソーン美術館、クライスラー・ビルなど各時代の精神を反映する代表的建築を磯崎新の解説、篠山紀信の写真とともに紹介。カラー図版が満載(現在入手不可)。

「いい加減よい加減」(アクセス・パブリッシング) 野村万蔵・著 300年の歴史を持つ加賀藩お抱えの狂言師、野村万蔵家の嫡男で総合芸術家の著者が、日本文化の持つ良き「いい加減」について、食、日本語、教育、伝統芸能など多様なテーマと自身の人生論をからめてつづるエッセー本。

「いい加減よい加減」(アクセス・パブリッシング) 野村万蔵・著 300年の歴史を持つ加賀藩お抱えの狂言師、野村万蔵家の嫡男で総合芸術家の著者が、日本文化の持つ良き「いい加減」について、食、日本語、教育、伝統芸能など多様なテーマと自身の人生論をからめてつづるエッセー本。

「神の雫」(講談社) 最新29巻 田中直・作 オキモト・シユウ・画 イメージを駆使したワイン表現は、ワイン愛好家をはじめワイン生産者や業界関係者からも高い支持を得る。ワイン評論家が選んだ時価2000円を超えるワインコレクションをめぐる対決に、実子の神咲と養子の遠峰一音が挑む物語。

「ヒルズ 挑戦する都市」(朝日新聞) 森稔・著 「職住近接」「立体緑園都市」「災害時に逃げ出す街から逃げ込む街へ」「土地で儲けようとしたことはない、創りだした建物や街の価値で勝負してきた」「都市からの日本復興」など、著者の街づくりの思想、森ビルの挑戦の歴史を伝える。

「街づくりには、ビジネス、市場、金融、法律、政治、芸術、世の中の風向き、人々の日常など、幅広い分野への関心と知識が求められます。既成概念にとわれず、人の意見を聞き、新しい考え方を受け入れ、未知の体験を求める勇氣と好奇心を持ち、変わり続けることと、東京、日本の復興に尽くしていきたいと思えます」

三笠書房 千代田区飯田橋3-3-1 http://www.mikasashobo.co.jp
最新刊 20代の必読書!! 英語勉強法 高速メソッド 20代のおきたいこと 20代の働き方 断捨離 365日が変わる! 聖書の謎 疲れない体をつくる免疫力